図画工作科学習指導案

指導者 石橋 恒也

1 学 年 第4学年 20名

2 場 所 奥田元宋・小由女美術館 ライブラリー

3 題材名 美術館にオブジェをかざろう ～私たちは芸術家～ 【領域】「つくる」「みる」

4 題材について

題材観

本題材は、学習指導要領に示された次の目標と指導内容を受けて設定した。

	第3学年及び第4学年の目標	第3学年及び第4学年の指導内容
A 表現	(2) 材料などから豊かな発想をし、手や体全体を十分に働かせ、表し方を工夫し、造形的な能力を伸ばすようにする。	(1)ア 身近な材料や場所などを基に発想してつくること。 (2)ア 感じたこと、想像したこと、見たことから、表したいことを見付けて表すこと。 (2)イ 表したいことや用途などを考えながら、形や色、材料などを生かし、計画を立てるなどして表すこと。 (2)ウ 表したいことに合わせて、材料や用具の特徴を生かして使うとともに、表し方を考えて表すこと。
B 鑑賞	(3) 身近にある作品などから、よさや面白さを感じ取るようにする。	(1)ア 自分たちの作品や身近な芸術作品や製作の過程などを鑑賞して、よさや面白さを感じ取ること。 (1)イ 感じたことや思ったことを話したり、友人と話し合ったりするなどして、いろいろな表し方や材料による感じの違いなどが分かること。
共通事項	ア 自分の感覚や活動を通して、形や色、組み合わせなどの感じをとらえること。 イ 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと。	

本題材では、お客さんにみてもらうことを前提にオブジェをつくり美術館に飾る。そして、背景を取り込んだオブジェの写真を撮り、その写真をみながら鑑賞する。

この題材で扱うオブジェの概念は、以下のようにする。

- ・材料は何を使ってつくられていてもよい。
- ・美術館に来られるお客さんに分かりやすいように、ある程度の大きさにする。(50cm～1m角)
- ・周りの自然や建築物と一緒に意味を持つ作品とする。
(具体物でも抽象物でもかまわないが、作品の意図が伝わるもの)

鑑賞は、絵画や彫刻に限られたものではない。美術館の建物には建築家の思いが込められ、庭や壁、池、植樹などのさまざまな表現方法も鑑賞の素材になっている。そこで、美術館という場所全体に目を向けさせ、手や体全体の感覚を使って意欲的に鑑賞することで、さまざまな表現方法があることが理解できる題材である。そして、作品と環境を融合することで、よりすてきな作品になることにも気付かせることができる。その鑑賞を基に、美術館や周りの環境を生かして飾るとしたらどんな作品がよいのか考え、グループでオブジェをつくり、そのオブジェを自分たちのイメージに合う背景を取り込んで写真を撮ることで、造形的な能力を伸ばすとともに、よさや面白さを感じ取る力を育てることができる題材である。

同時に、このことは児童の意欲をより高める活動になると考える。

本題材で児童に「つけたい力」は次の通りである。

- ・美術館の建築物や自然に興味を持ち、そこから受ける感じを大切に、意欲的に鑑賞する態度
【感じる力】
- ・建築物や自然からイメージをふくらませ、自分なりの表現を考える力
【考える力】
- ・自分たちで選択した表現方法や材料を使い、オブジェをつくる力
【つくる力】
- ・お互いの作品の意図やよさを感じ取る力
【みる力】

児童の実態

児童の意識を質問紙で調査したところ、次のような結果になった。

調査人数 20人	単位(人)	当てはまる	どちらかといえば当てはまる	どちらかといえば当てはまらない	当てはまらない
図画工作は好き。		15	4	0	1
図画工作の時間はわくわくする活動だ。		15	5	0	0
自分のアイデアを生かして絵をかいたり、 工作をしたりすることは好き。		9	9	0	2
みんなで協力して作品を作ることは好き。		15	2	1	2
みんなの作った作品を見て、話し合うことは 好き。		14	5	1	0

本学級の児童は、絵をかいたり、形をつくったりする活動を前向きに取り組むことができる。今までに写実的な自画像をかいたり、粘土でひもをつくらせているいろいろな形に発展させたりするなど細かい作業を丁寧にやりとげてきた。作品を見ると、かいたりつくったりする力はよくついていると感じられる。しかし、自分のアイデアを生かした独創的な作品をつくととなると、苦手意識を持っている児童がおり、「かけない、つくれない」と悩んでいる姿を時々見かける。既成の概念にしばられているのか、それとも発想力が弱いのかはよく分からない。理由はどうであれ、自分の考えを持ち、自分なりの表現を楽しんでできるようにしてほしいと考えている。

鑑賞については複製画をみて話し合ったり、友だちの作品のよさを見つけ合ったりする鑑賞学習を行い、自分なりの意見を出し合って楽しく鑑賞することができる。意見を発表する児童に偏りがあるので、書く活動を取り入れながら、自分の意見を必ず持つように取り組んでいる。また児童は、奥田元宋・小由女美術館を訪れ、さまざまな鑑賞をしてきた。その際、企画展や常設展を鑑賞し、実物を見ることで、自分なりの感想を普段よりも多く持つことができた。絵の鑑賞に対する意欲は高いので、意見を活発に出し合えるように普段からの授業を組み立てていきたい。

指導観

指導に当たっては、次のような手立てを講じていきたい。

【感じる力を育てる手立て】

美術館にあるオブジェがどのような意味を持っているのか、自分で感じることも必要だが、場合によっては難しいところもあると考えられるので、学芸員さんの説明を聞いて鑑賞させたい。また、風景にとけ込むオブジェがある写真を何枚か用意し、美術館に行く前に紹介し、見方を指導しておきたい。

【考える力を育てる手立て】

グループでオブジェをつくり始める前に、ワクワクカードに自分のイメージをかき出させたい。その際、この場所だからこのイメージを考えたということが説明できるようにさせたい。そうすることでグループで話し合っって一つの作品を作り上げるときも、十分な意見交流ができると思う。ワクワクボックスに材料を集めていくが、イメージに合う材料を集めるために十分な時間をとりたい。グループのイメージをもとにそれに合う材料についてヒントを出したり、集める方法を示したりしたい。

【つくる力を育てる手立て】

グループで制作する利点を十分に活用し、互いに教え合ったり見合ったりして制作活動を進めていきたい。作品のテーマをいつも念頭に置き、テーマに合う素材、テーマに合うオブジェの形や動きを考えながらつくらせたい。

【みる力を育てる手立て】

オブジェと背景の写真をみて、対話型で鑑賞する。まず、制作グループの発表を聞き、制作者の意図を理解させたい。そして、オブジェそのものの素材や形や色について、また、背景を含めたオブジェについて考えさせ鑑賞を深めさせたい。

5 題材の目標

美術館の建築物や自然に興味を持ち，そこから受ける感じを大切に，意欲的に鑑賞している。
美術館の建築物や自然からイメージをふくらませ，自分なりの表現を考える。
自分たちで選択した表現方法や材料を使い，オブジェをつくる。
お互いの作品の意図やよさを感じ取る。

6 題材の評価規準

ア 造形への関心・意欲・態度（感じる力）	イ 発想や構想の能力（考える力）	ウ 創造的な技能（つくる力）	エ 鑑賞の能力（みる力）
美術館の建築物や自然に興味を持ち，そこから受ける感じを大切に，意欲的に鑑賞している。	美術館の建築物や自然からイメージをふくらませ，自分なりの表現を考えている。イメージに合う背景を取り込んで写真を撮っている。	自分たちで選択した表現方法や材料を使い，オブジェをつくっている。	お互いの作品を鑑賞しあい，意図やよさを感じ取っている。

7 指導と評価の計画（全8時間）

次	学習内容 （時数）	評 価					
		ア	イ	ウ	エ	評価規準	評価方法
一	美術館内，館外にある建築物や自然を自由に鑑賞する。 （1）					・美術館の建築物や自然に興味を持ち，そこから受ける感じを大切に，意欲的に鑑賞している。	鑑賞カード
二	ワクワクカードに自分のイメージをかきだし，必要な材料を考える。 （1） 個人のイメージを生かしながらグループで話し合っまとめひとつのオブジェをつくる。 （4）					・美術館の建築物や自然からイメージをふくらませ，自分なりの表現を考えている。 ・自分たちで選択した表現方法や材料を使い，オブジェをつくっている。	ワクワクカード 行動観察 作品
三	美術館で背景を取り込んでオブジェの写真を撮る。 （1） ライブラリーでお互いの作品を鑑賞し合う。 （1）【本時】					・イメージに合う背景を取り込んで写真を撮っている。 ・お互いの作品を鑑賞しあい，意図やよさを感じ取っている。	ワークシート 発言

8 本時の展開

(1) 本時の目標

- ・ お互いの作品を鑑賞しあい、意図やよさを感じ取る。

(2) 本時の評価規準

お互いの作品を鑑賞しあい、意図やよさを感じ取っている。

【鑑賞の能力】

(3) 準備物

〔指導者〕

- ・ スクリーン、プロジェクター、ワークシート

〔児童〕

- ・ 筆記用具

(4) 学習展開

学習活動	指導上の留意点（支援を要する児童への手立て）	評価規準（評価方法）
<p>1 本時の課題を確認する。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <p>背景を写したオブジェの写真を見て作品のおもしろさを発見しよう。</p> </div> <p>2 各グループのオブジェ写真をみながら説明を聞き、鑑賞する。 グループの説明を聞きながら、そのオブジェのよさを見つけよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ わたしは池を背景にしているのいいと思う。とても広いところにある感じがする。 ・ 近くで撮ると背景に対してオブジェが大きく見えるのでおもしろい。 ・ オブジェを針金で作っているところがいい。不気味な感じがする。 ・ ぼくは～さんと違って、楽しい感じがした。 <p>3 本時のふり返しをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 作品の意図が伝わるように、制作グループに、作品の題名、自慢したいところ、背景とのつながりについて説明させる。 ・ 自分の考えをまとめやすいように、メモを取りながら聞かせる。 ・ 多面的に意見を出させるため、オブジェそのものへの意見と背景を含めた意見のどちらも考えさせる。 <p>少人数で話し合わせ、意見を出しやすくさせる。</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin: 10px 0;"> <p>【児童の意欲を高める言葉がけ】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 発表している児童に対して 「背景が山だと作品が映えるね。」 「なるほど、この形・色が～を表しているんだね。」 ・ 聞いている児童に対して 「なるほど、そういう見方もあるんだね。」 「いいところに気がついたね。」 「この色から受けるイメージは？」 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ 意図的な指名をして、発表させる。 <p>ふり返しをしやすいように机間指導をして、ワークシートに記述している表現のよさを認めたり、アドバイスしたりする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ お互いの作品を鑑賞しあい、意図やよさを感じ取っている。 <p>【鑑賞の能力】 (ワークシート、発言)</p>